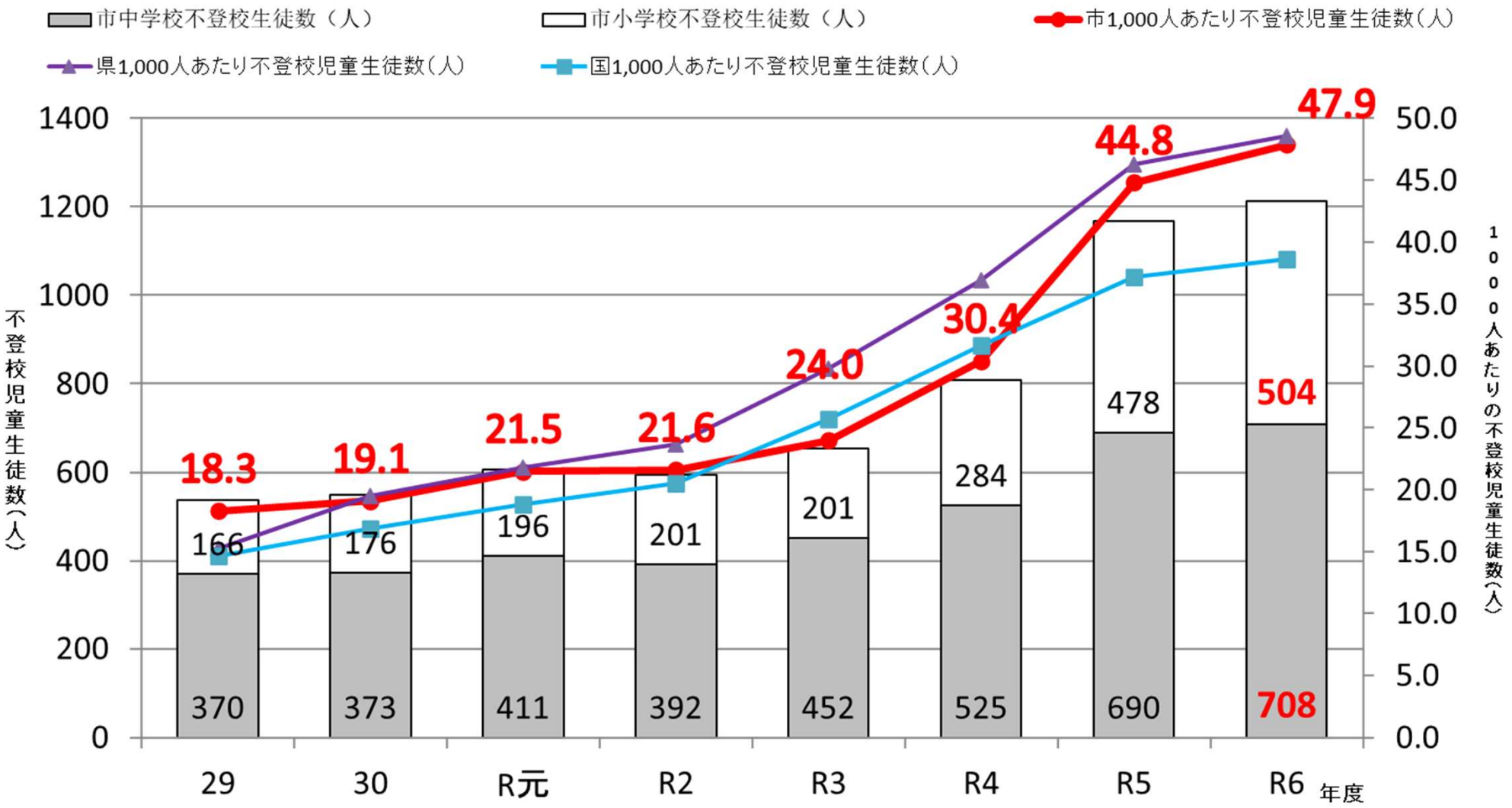
令和６年度の長野市の状況【不登校児童生徒】

報告１号

長野市不登校児童生徒数及び1000人あたりの人数の推移

- 不登校とは、**年間30日以上欠席**した者のうち、病気（入院、通院）や経済的な理由による者を除いたもの
- 腹痛、頭痛等の欠席は**「不登校」に**分類



令和6年度　小学校504人　中学校708人　計1,212人

令和４年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果及びこれを踏まえた緊急対策等について（通知）

令和５年10月17日

不登校・いじめ　緊急対策パッケージ

不登校の児童生徒全ての学びの場の確保

① 落ち着いた空間で学習・生活できる環境を学校内に設置するため、校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）未設置校への設置促進

② 学校内外で支援が受けられていない児童生徒がオンラインで自宅等から学べるよう、教育支援センターのICT環境整備

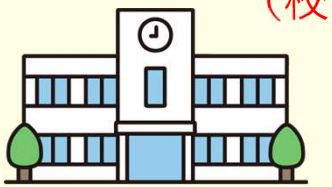
③ **どこにもつながっていない児童生徒に支援を届ける**ため、自治体の体制を強化することを目的とした、**教育支援センターのアウトリーチ機能**など、総合的拠点機能の強化

訪問型アウトリーチ支援事業「つながるサポート」

長期に欠席し、自宅に居ることが多い児童生徒を対象に、アウトリーチコーディネーターを中心としたスタッフが家庭等に訪問することを通じて、子どもの心理的安定、生活リズムの改善、学習の遅れの解消、学びの場への接続等を支援する。

学 校

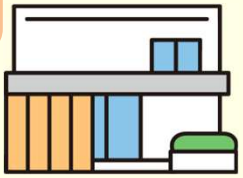
校内サポート
（校内教育支援センター）





一人一人の子どもに合った
オーダーメイドの支援を通して
学びや必要な支援に繋ぐ

フリースクール等居場所





- フリースクール
- 居場所
- 放課後デイ
- 子ども食堂

自宅ICT

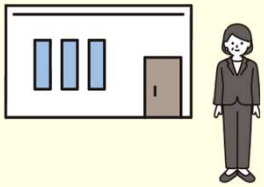




メタバース

教育支援センター

- かがやき
- 東北
- ふれあい
- 三輪
- 南部
- 川中島
- 篠ノ井
- SaSaLAND



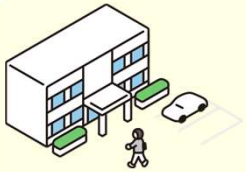
登録しているが利用が少ない
子どもへもアウトリーチ支援

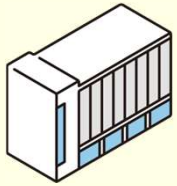
連携

申し込み
【学校から】

訪問

専門機関





- 福祉機関
- 医療機関
- 法務少年支援センター
- 児童相談所
- 子ども総合支援センター
- 教育委員会



支援計画

同行して
子どもと交流



出張フレンド
（信大学生）

しなのき
サポーター
【フル】７名
支会ごと配置
裾花、昭和、三本柳、吉田、古牧、篠ノ井西、若槻



アウトリーチコーディネーター
（SSW）

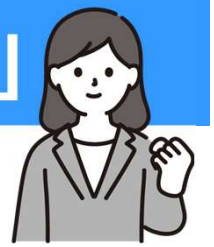
アウトリーチ
スタッフ
７名
支会ごと配置

こども総合支援センター
あのえっと



アウトリーチチーム

訪問型アウトリーチ支援事業「つながるサポート」



申込状況（１月23日現在）

- 申込数　123　件
- 学年ごとの状況

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
人数	6	13	11	10	15	16	18	21	13

123件の状況

	状況	件数	具体
A	今後支援	28件	➢ 家庭の状況の好転に向け、SSWが支援中 ➢ 保護者との顔合わせの日程を調整している ➢ 申し込みをしたが、登校を始めたため不要となった。
B	保護者との顔合わせ済み	11件	➢ 保護者との顔合わせが済んだが本人が望んでいないため、タイミングを計っている。⇒保護者との関係の構築を進める。
C	支援中	65件	➢ 登校サポート、校内教育支援センターでの支援 ➢ 家庭訪問、自宅支援（工作、会話等） ➢ オンライン支援 ➢ 屋外支援（飲食店、ねこカフェ）
D	支援終結、休止	19件	➢ 学びの場に繋がり、安定しているため終結 ➢ 順調に支援が進んでいたが、本人の意欲が低下し一旦休止。支援計画の再検討。

84件

学びの場への接続状況

・支援をした84件中、**51**件が学びの場への接続や安定した利用につながっている。
　⇒安定した登校、校内教育支援センターの利用、校外教育支援センターの利用

事例①

➢ 支援事例：校内教育支援センターへの登校につながったケース

・中学１年生　男子

・R６（小６次）欠席数：１７９日

・学校には行きたいという思いはあるが、一人で外に出るエネルギーがない。

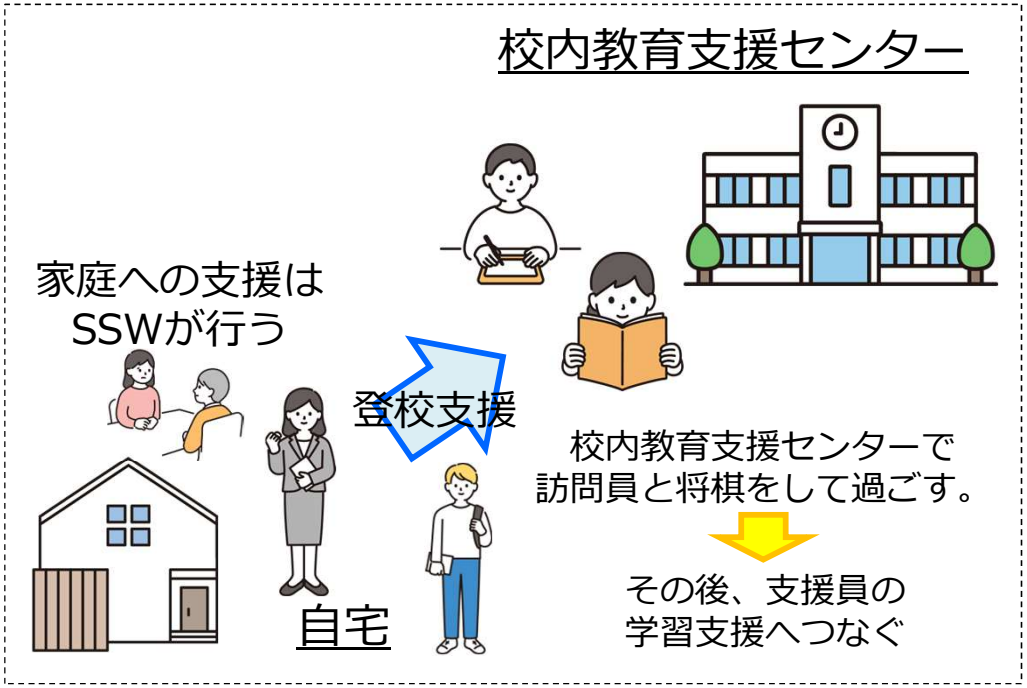
①学校、家庭、訪問員、SSWとで顔合わせ

②アウトリーチスタッフと週２回登校し、校内教育支援センターへ（約４か月）

④学校職員による学習支援につなぐ

⑤継続的な登校、学習により自信をもてるようになり、週３日の登校を希望

⑥出張フレンドも交えてサポートを実施



- 学校から出された課題も家で行うようになり、**学習への意欲**も高まっている。
- 徐々に訪問員との関係が築かれ、訪問員に自分のことを話せるように。
- 徐々に登校日数を増やしたいという本人の希望を基に、スタッフ、フレンド、さらには一人での登校を交えながら、現在は毎日登校をしている。

事例②

➢ 支援事例：共通の趣味をもつスタッフとオンラインでつながったケース

・小学４年生　女子

・R６欠席数：191日

・SaSaLANDに登録しているが利用は
ほとんどなく自宅に居ることが多い。

① SaSaLANDスタッフからアウトリーチを勧める。

② 母親とアウトリーチCoとで本人の状況を確認し、好きな「推し」グループの話であれば、他の人とつながりがつくれると考える。

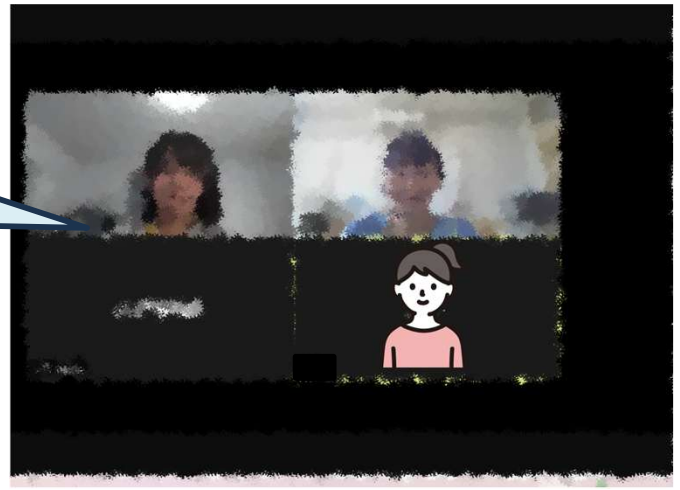
③ 共通の趣味を持つSaSaLANDスタッフと本人、アウトリーチスタッフでオンラインでつながる。

④ スタッフとの関係が築けてきたところで、出張フレンドも参加しつながりをつくった。

⑤ 教育支援センターのバス遠足に母、スタッフとともに参加できた。

⑥ 自宅支援ができるようになり、自宅でシール交換やゲーム、外に出ての買い物が徐々にできるようになってきている。





保護者の方から

〇〇さんありがとうございました！今までのオンライン体験の中でも一番しゃべっていただと思います。ありがとうございます。本当に感謝感謝感謝です 🙇
私も、仕事もできるし、ありがたいです 🙇
ただただ流れていく閉じこもった日々に
一筋の光が差し込んできたような印象です^ - ^

訪問型アウトリーチ支援事業「つながるサポート」

一人一人の状況に合ったオーダーメイドの支援

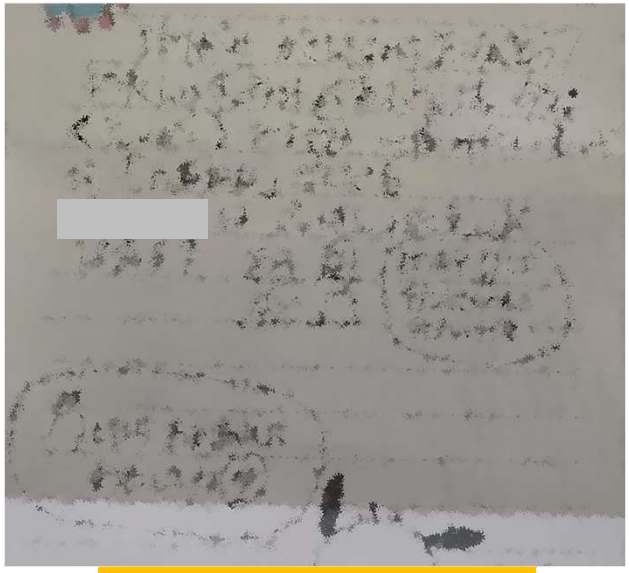

猫カフェ


自宅でベーグル作り


出張フレンドと公園で遊ぶ


クリスマスマーケット

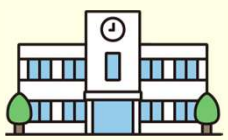

SaSaマイクラへの参加


手紙によるやりとり

「つながる」をキーワードにした長野市不登校児童生徒支援体制

学 校

子どもたちが活躍できる魅力ある授業づくり、明日も行きたくなる学校づくりを進めます。





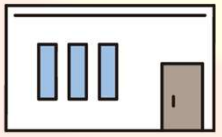
校内教育支援センター

支援員「しなのきサポーター」を配置し、自分の教室に入りにくさ感じる子どもたちが安心して生活、学習できる場を校内に作り、支援します。（R７は小学校11校に配置）



教育支援センター

市内８ヶ所の教育支援センターそれぞれの特徴を活かし、子どもたちが安心を実感できる居場所づくりを進めます。



長野市教育支援センター
- SaSaLAND
- かがやき
- 東北
- ふれあい
- 三輪
- 南部（はばたき）
- 川中島
- 篠ノ井

自宅ICT



マインクラフトを活用したメタバース活動



不登校親の会



自 宅

訪問型アウトリーチ支援「つながるサポート」



アウトリーチコーディネーターを中心としたスタッフが家庭等に訪問し、子ども一人ひとりに合った学び、必要な支援に繋げます。





【アウトリーチチーム】
- アウトリーチCo、スタッフ
- 出張フレンド(大学生)

家庭訪問





フリースクール等民間施設

フリースクール等民間施設との連携を推進し、子どもたちが自分に合った居場所を選択できるよう支援します。



- フリースクール
- 居場所
- 放課後デイ
- 子ども食堂

居場所説明会 長野地域多様な学びフォーラム



居場所情報掲載冊子

専門機関

子どもや家庭の状況に応じて、福祉機関や医療機関等、専門の相談・支援に繋ぎます。



家庭と専門機関とのパイプ役 スクールソーシャルワーカー

- 福祉機関
- 医療機関
- 法務少年支援センター
- 児童相談所



こども総合支援センター「あのえっと」相談窓口





相談フォームの活用

行政機関

教育委員会　こども未来部

不登校の子どもやその保護者をサポートできるよう他部局と連携し、包括的で切れ目のない支援の充実を図ります。

長野市多様な学び支援関係者会議

